

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 乙第 2406 号

橋田邦彦の「医」の思想と澤瀉久敬の「医学の哲学」—昭和前期の医療倫理教育に関する予備的考察—

(Hashida Kunihiko's Concept of "Medicine" and Omodaka Hisayuki's "Philosophy of Medicine": A Preliminary Study of the History of Medical Ethics Education in Early Showa-era of Japan)

勝井 恵子 (かつい けいこ)

博士 (医学)

論文内容の要旨

わが国における生命・医療倫理学 (biomedical ethics) は、1970 年代に欧米よりもたらされ、学問として発展し、今日に至るとされる。生命・医療倫理学が対象とする問題群は、今でこそ ELSI (Ethical, Legal, Social Issues: 倫理的・法的・社会的諸問題) などと称されるものの、それらの問題自体は、学問の成立とともに突如として立ち現れてきたものでないことは論を俟たない。実際、わが国において生命・医療倫理学が学問として出発する前段階には、「医学概論」や「医学哲学」、「生物哲学」といった名称の学問分野が、医療者の職業倫理や医療者・科学者のあるべき姿、医療や科学のあり方や医療実践をめぐる倫理的諸問題などに関する議論を重ねてきた。

では、近代医学の成立以降、つまり医療者が制度的な医学教育を通じて育成される時代になって以来、医療者や科学者のあるべき姿や医療や科学のあり方は、医学教育を通じてどのように学生たちに伝えられようとしてきたのか。この問いに取り組むべく、本論文では、昭和前期の医療倫理教育に関する予備的考察として、生理学者である橋田邦彦の「医」の思想とその教育と (第 I 章)、哲学者である澤瀉久敬の「医学の哲学」および大阪大学医学部での「医学概論」の講義について検討を行った (第 II 章)。

橋田も澤瀉も、「医学」・「医術」・「医道」という三要素を中心に据え、それぞれの「医」の思想や「医学の哲学」を論じており、それらは医療者に対して、既存の医学や医療への自己反省を求めるものであった。また、両者とも医療者だけでなく患者にも「医道」を求めていた。さらに、「医」あるいは「医学」が目指すところは疾病の克服であるが、その疾病は「生」の一部として生じるものである以上、「生」という複雑極まる生命現象を把握するための全体的な視座が不可欠であるとする見方も両者の思想の共通点として挙げられる。

橋田は自身の「医」の思想において、「医」というものを「行」として実践することを要請し、そのことを主に課外での教育活動や学外活動を通じて、自らがそれらの活動を推し進めていくことで、医学生や教室員に伝えようと試みた。他方、澤瀉は自身の「医学の哲学」を、大学が新設した医学教育カリキュラムの「医学概論」を通じて展開した。医療者や科学者のあるべき姿や医療や科学のあり方に関する両者の教育実践は、医療倫理教育の「学び (まねび)」から「学び (まなび)」への転換の様相を示す一事例と考えられる。